

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00376

研究課題名（和文）現代アメリカ文学・文化の中の海の役割と概念性

研究課題名（英文）The Relationship Between Modernist Expressions in American Literature and the Marine Environment: Perspectives on Culture, History, and Concepts

研究代表者

山城 新（YAMASHIRO, SHIN）

琉球大学・国際地域創造学部・教授

研究者番号：80363654

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：初年度はアメリカ文学のモダニズム表現分析を進め、ラブクラフトの作品を解題した。ハーバード大学を訪問し、19世紀末から20世紀に関連する現代絵画や海運史の調査も行った。英国グリニッジの国立海洋博物館で英国や米国の資料収集を通じて米英海軍の文化的違いを分析した。コロナ禍で研究計画と研究内容が大幅に変更され、研究期間を延長した。収集資料の整理や論文執筆を進め、海運とパンデミックの関連も調査することができた。教育面では海洋文学の講義を実施し、外国人研究員を受け入れ、新たな共同研究計画を立てることができた。現在、出版に向けて海環境思想や航海記録の論文を執筆中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アメリカ文学のモダニズム表現と海環境の関係を分析し、新たな文学研究の視座を検討した。19世紀後半から20世紀初頭の航海日誌やSailing Ship Cardのデータを整理・解題し、当時の物流や文化的影響を考慮する為に検討し、海運史や文学史の理解を深化させることができた。教育への貢献については、海環境や海洋文学に関する最新の研究成果を大学の講義で提供した。以上の内容については現在論文を執筆中である。研究期間中、4回（3名）の外国人研究員の受け入れ、同時に共同研究の計画を通じて国際的な学術交流を促進し、共同研究を深化させる基盤を構築した。

研究成果の概要（英文）：I made the analysis of modernist expressions in American literature and annotated Lovecraft's works. At Harvard University, I conducted research on modern paintings and maritime history related to the late 19th and early 20th centuries. At the National Maritime Museum in Greenwich, UK, I collected British and American materials to analyze the cultural differences between the British and American navies. Due to the COVID-19 pandemic, the research plan and content were significantly altered, and the research period was extended. I organized the collected materials, wrote papers, and investigated the relationship between maritime activities and pandemics. In terms of education, I gave lectures on marine literature, hosted foreign researchers, and established new collaborative research plans. Currently, I am writing papers on maritime environmental thought and navigation records for publication.

研究分野：環境文学、海の文学、環境思想史

キーワード：アメリカ文学 環境批評 環境思想

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は前著 *American Sea Literature* (Palgrave Macmillan, 2014)において、まず海環境の特性を海上 海辺 海中 に分類し、それぞれに呼応する言説を“Seascapes,” “Beach Narratives,” “Underwater Explorations” と名付け、植民地時代から 20 世紀中葉の関連するアメリカ文学(映画を含む)作品を論じた。今回の研究では対象時代区分を 20 世紀後半から 21 世紀前半の現代アメリカ社会と限定することで、前著のアプローチを踏襲しつつ、未整理の 20 世紀後半から現在に至るアメリカ文学・文化における海の動態を 現代アメリカ文学と海 として更なる議論の深化を目指すものであった。当時、すでにハーバード出版局から *Neptune's Laboratory Fantasy, Fear, and Science at Sea* (2019) や MIT 出版局から *Tidialectics: Imagining an Oceanic Worldview through Art and Science*(2018)が公刊されるなど、すでにモダニズム研究と海環境の接点については関連する研究書がスタートしていたが、本研究は既刊の研究書では扱われていない資料の発掘と分析をアプローチの対象とし、これまでの本研究者の研究成果を発展させることが主眼であった。

## 2. 研究の目的

すでに上述のとおり、これまで未開拓の研究資料を発掘・分析し、更に研究を発展させることが目的であった。コロナ禍により大幅に研究計画を変更せざるを得ず、年度途中で研究内容にも影響が出てきてしまったが、主軸の研究目的としては当初の計画どおりアメリカ文学・文化における海環境の動態を様々な資料を用いて分析し、今後の研究と教育の発展につなげていくことであった。

## 3. 研究の方法

2019 年に英国大英図書館とグリニッジ王立博物館で収集した資料に加え、米国 Peabody Essex Museum の Philip Library 所蔵の資料、併せてその他オンラインで収集可能な資料を対象とした。資料は航海記録や日記の第一次資料の他、Sailing Ship Card やパンフレット等の 19 世紀から 20 世紀の英米国籍の商船にまつわる物流記録や海運に関する宣伝方法を示す資料をデジタルカメラで資料化した。その他にも様々な文学作品を収集・解読し、データを書き起こした上で、全体として文献整理をした。

## 4. 研究成果

初年度の計画では、これまでの調査の要領を踏まえ、基礎的な作品・事例について情報を集め整理する(6月~9月、12月~翌年3月)を予定していた。収集した資料として、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて出現するアメリカ文学におけるモダニズム的表現分析において、アメリカの代表的 SF 作家であるラブクラフトの全作品を解題した。初期の SF 作品の世界観(異界)は海環境の描写に依拠する傾向が強く、また、登場する異界の生物・怪物は深海生物的な特徴を備える傾向がある。今回の分析ではラブクラフトの描く SF 的世界像を一つの例として、海環境的要素がどのようにモダニズム的表現として援用されているかについて分析を進めた。本稿については現在投稿準備中である。また、現代芸術表現、特に現代絵画

における海環境の要素の影響関係についても調査を始めるとともに、20 世紀の海運行や物流、及び造船技術を通して流通するモノの移動がどのように変化したかについても資料収集した。教育の面では、琉球大学の共通教育科目「総合環境論」のフィールドワークに参加し、首里・那覇地区の歴史的展開の中で、海環境の果たした役割について説明した。また、その他講義を 3 回担当し、19 世紀欧米の琉球来航たちが琉球の自然環境をどのように表現したかについて史料を踏まえて講義した。これらの講義の史料は今回の科研を通して購入した史料の考察の中で見つけたトピックを講義用に発展させたものである。

2019 年 8 月 10 日から 16 日の日程で英国大英図書館、グリニッジ王立博物館を訪問し海事、海運史関連資料を調査した。大英博物館においての調査目的は 1)英国所蔵の米国海事・海運資料の所在の確認と、2)19 世紀米国海事思想家である Alfred Thayer Mahan の思想的背景を同時代の英国の史料の中に探ること、更に 3)米英海軍の文化的特徴の違いを史料の中に探ること、であった。1)に関して米国海事関連史料館よりも遥かに多様な海図や海路史料の種類が所蔵されていることを把握した。2)についてはマハン自身がしばしば言及する英国ネルソン提督関連の海図史料を収集した。3)英米の海軍の活動が果たした文化的要素を考慮する際の興味深い史料としてグリニッジ王立博物館所蔵の"dazzle ship"あるいは"dazzle camouflage"と呼ばれる艦船に施された迷彩デザイン関連の記録を収集した。

2019 年 9 月 16 日から 22 日の日程で米国・セイラム の Peabody Essex Museum の Philip Library を訪問し、東海岸の商船の航路や海図を中心に資料収集した。今回新たに見つけた資料は Sailing Ship Card(帆船カード)である。Philip Library では更にその最新資料に含まれていない帆船カードが所蔵されていることが分かった。世界的に帆船カードをまとめたコレクションとして所蔵しているのは Philip Library のみであり、今回収集した資料を元に帆船カードを基に米国商船の活動範囲とそれに用いられたマーケット戦略や商船の果たした文化的役割について分析を進めていった。

まず、2019 年度の調査出張で収集した Sailing Ship Card を出港日、出港地、目的地を元に整理した上で、米国 Mystic Seaport Museum 所蔵のオンライン公開資料と相互比較することで、米国と英国間を流通した広告メディアの動態について考察を進めた。また、使用されている図像について、19 世紀英米の一般的絵画(風景画)の技風との関連性を比較分析中である。今回のコロナ禍をきっかけとして、英米におけるパンデミック史と海運・航海との関係について、コロンブス以来の欧米植民地政策の歴史は、Alex Chase- Levenson による The Yellow Flag: Quarantine and the British Mediterranean World, 1780-1860(Cambridge University Press, 2020)及び John Booker による Maritime Quarantine: The British Experience, c.1650-1900(2007 年、Routledge)を中心に関連性を分析中である。同年、『英文学研究(第 97 巻)』からの依頼により書評「石原剛編著『空とアメリカ文学』 彩流社 2019 年」を執筆し、同誌に掲載された(2020 年)。教育面では、共通教育科目「総合環境学概論」「環境と文学」と専門科目「総合環境論」「地域国際実践力演習 II」の中で海環境と海洋文学関連の資料を基に講義を実践した。特に「地域国際実践力演習 II」においては今回の科研資料分析と関連させて「海の風景画」と海の文学について講義トピックを提供し、「環境と文学」においては石石牟礼道子とレイチェル・カーソンの環境言説と

海環境との関連性について現在研究中のトピックから話題を提供した。

米国 Peabody Essex Museum (PEM) で収集した航海日誌について、Mason Family に関する記録、商船 Cohota の航海日誌、商船 Massachusetts の航海日誌、貨物船 Yumchi の航海日誌に記録された 19 世紀後半の貨物物資の種類や交易範囲をデータ整理した。中国を中心として展開されていた当時の海域を介したグローバル物流経済の中で、モノの移動とヒトの移動がどのように連動し、展開していったのかを把握しようと試みた。航海日誌の解題は極めて時間を要する文献学的アプローチとなるため、まだ米国と中国間に限った 19 世紀後半の物流の全体把握には時間を要するが、いくつか今後の研究課題の展開に資する発見もあった。例えば、商船「Cohota」、商船「Loo Choo」、商船「Sooloo」が琉球や日本を経由しつつ当時のグローバル経済にも関わっていく様は、アメリカ産業革命からモダニズムに変化する過程において、あまりこれまでの研究でも言及されていない文化史の側面を表しているように思えた。クリッパー船や貨物船の発達がと Sailing Ship カードの流通と連動していたことを過年度の研究では確認したが、同様に当時のアメリカ文学の表現形式の変化が、そのように 19 世紀後半の商船の移動と関連していたのかを今後明らかにしたいと考えている。

本研究課題に関係して海外の大学から外国人客員研究員として 3 名を受け入れ、研究的助言や論文執筆支援を行った。1 人はオスロ大学(ノルウェー)研究者で「アジアにおける海獣と環境思想」というテーマでアジアと欧米の環境思想を比較考察的に研究しており、環境思想史的助言を行うとともに、執筆中の論文についてもコメントした。グダニスク大学(ポーランド)からは環境人文学(海中文化)と演劇研究で 2 人の研究者を受け入れ、それぞれの研究テーマに助言をするとともに、今後の共同研究の計画について話し合った。また、昨年度グダニスク大学より受け入れた研究者 1 人が 2023 年度の日本財団から「国際交流基金日本研究フェロシップ」に採用されたと報告があった(2023 年 4 月 26 日)。今後、研究協力者として引き続き研究を支援する予定である。

これまでの研究成果を今度の研究成果につなげるべく引き続き総括中である。主に、研究期間で行った調査のデータの解題を改めて行い、今後の研究展開を含めた課題を次のように整理した。1) 欧米モダニズム研究における海環境思想の相関、2) 大衆メディア(ビジネスカード・海運会社広告、その他海関連のサブジャンル)と同時代文学との関連性、3) 航海誌、航海記録から抽出される海事状況と詳細。上記の状況により論文公刊までには至っておらず、2023 年度も研究補助期間延長申請を行うことになったが、引き続きこれまでの実績を総括し、論文公刊につなげるべく研究を計画している。

加えて現在 2 編の論文を執筆中である。そのうち 1 編は欧米モダニズム思想の展開の中で海文化や海の文学がどのように環境思想的に相関していたのかを議論している。例えば、1) Norman Wilkinson の "The War at Sea" シリーズの中の Dazzle ship(迷彩カモフラージュ船)の中の視覚的デザインは、これまでその色彩的・デザイン的な特徴にモダニズムの特徴がピカソらのキュビズム運動でも注目されたとされるが、本稿ではむしろ Dazzle Ship にそのような疑似科学的効果を期待した開発者らの意図を "disruptive"(分裂的)として着目し、精神分析学的思想と組み合わせて海環境概念が展開されていくモダニズムの側面と

して議論している。本稿についてはできれば近日中に査読付きジャーナルに投稿予定である。また、2)Peabody Essex Museum で収集したボストンを発着地とするクリッパー船の物流広告媒体として19世紀後半に流通した Sailing Cards の分析をとおして、ゴールドラッシュを触媒として展開されたアメリカ東部と西部(サンフランシスコ沿岸)、オーストラリア、ニュージーランドのウェリントン間の物流が一般的なアメリカ西部開拓史研究の枠内から外れる当時のグローバルな西部開拓史を示している点を考察としてまとめた。更に3)Peabody Essex Museum で収集したボストン、メドフォードを中心に造船された船の記録情報を基に、これまで北米大陸とアジア地域の物流交易航海記録を整理中である。船の航海記録や造船記録を基にサイドや示したオリエンタリズム、あるいはベネディクト・アンダーソンの示した「共同体」の議論との関連性を検討中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山城 新	4. 巻 97
2. 論文標題 「石原剛編著『空とアメリカ文学』 彩流社 2019年」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英文学研究	6. 最初と最後の頁 127、131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------